

ヒット曲は景気を語るか（唄うか）？

社会心理とマクロ経済の関係についての一考察

Do Japanese hit songs hit Japanese eco

保原伸弘[†]

Hobara Nobuhiro

一橋大学経済研究所

Hitotsubashi University Economic Research Center

We think hit songs released in Showa, and Heisei periods in Japan as good indicator toward Japanese economy. We analyze the nature of about three thousands hit songs, tempo, tonality, mode, and try to make a regression these mature of Japanese hit songs against Japanese GDP and DI (Diffusion Index). As a result, we find that the mature of Japanese hit songs have a strong relation to Japanese GDP and DI (Diffusion Index). In short, the average tempo of hit songs increase as the increase of GDP till Bubble Economy, while the average tempo of hit songs decrease as the increase of GDP after Bubble Economy. The hit songs which have the tonality signal # (sharp) increase against the hit songs which has b (flat) as Japanese DI increase.

1. イントロダクション

本稿では、経済を取り巻く社会心理を反映した例として、日本の昭和期および平成期に流行ったヒット曲の調性とテンポに注目する。たとえば、Mattheson (1739)や Kellertat (1982) は、調性は、楽曲の性質や楽曲が取り扱おうとしている心理と関係があり、それらに忠実なものが選択される場合が多いとした（調性性格論）。ベートーベンの「英雄」や「皇帝」には英雄的広がりをもつ変ホ長調が用いられ、R・シュトラウスの「英雄の生涯」にも同じ変ホ長調が用いられる[‡]。ここで、#（シャープ）がつく調性は、「硬い（シャープ）」調性、b（フラット）がつく調性は、「柔らかい（フラット）」調性とされる。

同様に、テンポも、その楽曲の性質と関連をも、激しい感情を表現したいときは、基本音符=120以上の急速なテンポが、柔和な語りかけのときは、緩慢なテンポが選ばれる。

日本のヒット曲も、その調性やテンポを基準にして、性格を分類することができよう。また、楽曲が人の心情を表す以上、ヒット曲（流行歌）のもつ調性やテンポが、その年の経済的状況や社会的状況を反映したものと考えられる。

2. 分析手法

被説明変数にヒット曲の調性やテンポをとり、実質国内総生産（GDP）と景気動向指数（DI）の二つの経済指標を説明変数として用いたい。GDPは、総務省統計局発行が実質化したもので、DIは統計局のアンケート調査や各種産業の活動状況を組み合わせて景気そのものを反映するように作られた指標である。

[†] 保原伸弘 一橋大学経済研究所科学研究費研究員 〒186-8601 東京都国立市2-1-042-580-8000 E-mail: pc01867@srv.hit-u.ac.jp

[‡] 表1参照。

ヒット曲（流行歌）として、全音出版社から出版された「全音歌謡曲大全集」に掲載された楽曲を分析に用いた。調性の数値化をここでは以下のような基準に則って行う。

1. 楽曲に転調がある場合は、もっとも小節数の多い調をその楽曲の代表的な調とする。
2. 調号に、#（シャープ）が一つあった場合は、+1点、b（フラット）が一つあった場合は、-1点とする。たとえば、その年に、#（シャープ）3つの調号のイ長調の曲が1曲あった場合には、+3点が加えられる。これに合わせて、b（フラット）1つの調号のニ短調の曲が1曲あった場合には、計+3 + (-1) = +2点が加えられる。

このように各楽曲に数値を与えたのち、各年度以下の二つの統計値を集計する。

3. 各年において、#、bに関し、各楽曲に付した数値をそのまま合計する。
 4. 各年において、#、bに関し、各楽曲に付した数値の絶対値の合計値も考える。
- 3の合計得点は、各年のヒット曲に含まれる#（シャープ）の数のb（フラット）の数に対する相対的な「多さ」をあらわす。得点の大きい年ほど、#系の「積極的な曲がより求められた」年と考える。逆に、小さな年ほど、b系の「消極的な極を求められた」年と考える。

4の絶対値の合計得点は、各年のヒット曲に含まれる#（シャープ）の数とb（フラット）の数の「多さ」をあらわす。この絶対値の合計得点の大きい年は「硬い曲」から「柔らかな曲」まで「多様な楽曲」が求められた年ともいえるかもしれない。または、ヒット曲への趣向の振幅の大きな年といえるかもしれない。

さらに、各年の長調のヒット曲の数と短調のヒット曲の数の差（Dur-moll）も考える。通常、長調の楽曲は明るく、短調の楽曲は暗いといわれるが、その解釈どおりであるなら、この指標が大きな年はより明るいヒット曲を求めた年となる。

次に、テンポは音楽活動で基準となる、メトロノーム記号の数値を考える。この数値が大きいほどその楽曲のテンポは早くなり、数値が小さくなるほどその楽曲のテンポは遅くなる。ここで、メトロノーム記号が付されていない、もしくは作曲者による指定がない場合には、その楽曲についてのテンポの分析から排除して考える。また、作曲者によるテンポの指定が幅をもってなされているときは、その上限と下限の平均をもって、その楽曲のテンポとする。

3. 分析結果

分析の結果、HIT4（ヒット曲のテンポの平均）とGDPとは、1987年以前は正の有意な相関、1987年以後は負の相関があることがわかった（図1参照）。高度成長の達成にむけ、経済状況が活気づくのに応じ、速いテンポの楽曲が求められていたが、高度成長を達成し、経済や社会が成熟した後は、求められるのは逆に、落ち着いたテンポの楽曲となる。推定式における昭和イヤー・ダミーとHIT4との間には相関が認められず、この実質GDPの増加に応じてヒット曲のテンポが遅くなる関係は、昭和と平成の断続的な変化には関係ないようである。一方で、HIT4とCYC（景気動向指数、DI）との間には相関が認められなかった。ヒット曲のテンポの平均は、瞬時的な経済状況の変化には左右されず、実質GDPのような構造的な変化によってのみ影響を受けることがいえそうである。

HIT2（#やbに関する得点の絶対値の合計をヒット曲で割った数、 $(\# + b) \div \text{ヒット曲数}$ ）はHIT4（ヒット曲のテンポの平均）とは対照的に、1987年以前まではGDPと負の有意な相関、1987年以後はGDPと正の相関が見られた。家計の社会生活時間調査などの余暇時間の過ごし方の調査などからもわか

るように、GDP が拡大すると各個人の消費のや時間における趣向の「多様性」が高まると考えられるが、1987 年以後は、実質 GDP が拡大するにつれ、より # や ♭ の大きな振幅が好まれ、より「多様」な楽曲が好まれるようになるということもいえそうである。一方で、1987 年以前は、多様性を犠牲にしても、高度成長の達成する社会のあり方が確認される。ここでも HIT2 と昭和イヤー・ダミーとの間に有意な相関が認められなく、この関係は昭和から平成までの断続的な変化とは無関係である。

HIT1 (# や ♭ に関する得点の単純合計得点、 $(\# - \flat) \div \text{ヒット曲数}$) の場合は、昭和 51 年以降、CYC(景気動向指数) との正の有意な相関と CYC(景気動向指数) との同じ動きが確認できる(図 2 参照)。経済状況が上向けば、# (シャープ) 系の「硬い」[闊達]な楽曲が社会に受け入れられ、経済状況が下向けば、柔和な ♭ (フラット) 系の「柔らかい」楽曲が社会に受け入れられる。また、HIT 1 は景気動向指数と循環をもちつつ、GDP の増加に応じて上昇するという二つの動きを併せ持っているということも確認できる。

ただし、昭和 41 年から平成 12 年まで広げて、HIT1 と景気動向指数との関係を推計してみると、両者の間の相関は見られなくなった。これは、高度成長期には、高度成長という大きな目標を達成するため、瞬時的な景況感に対する社会心理は乏しくなったためと考えられる。また、異常なイベント(出来事)があった場合には、HIT 1 は、景気動向よりそのイベントに鋭く反応する場合もある。バブル景気の絶頂における昭和 62 年は、景況が良いにもかかわらず、♭ 系の楽曲が異常に多く、金融恐慌に直面した平成 10 年には、景気が悪いにもかかわらず、# 系の楽曲が多い。

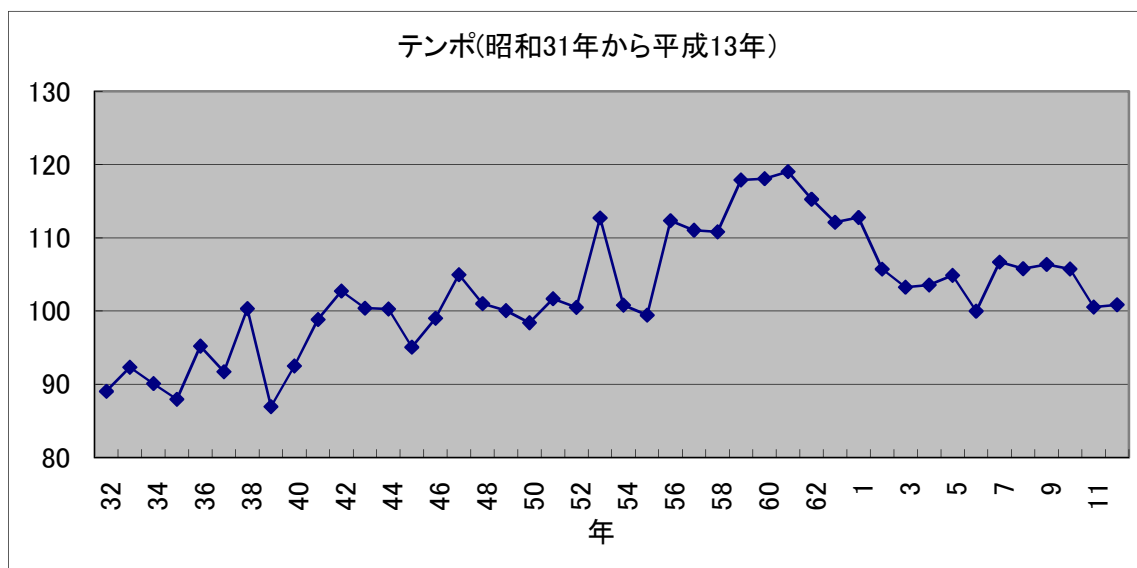
最後に、HIT 2 (長調のヒット曲の数と短調のヒット曲の数の差 $(\text{Dur} - \text{moll}) \div \text{ヒット曲数}$) と景気動向指数の間には有意な関係はなく、長調や短調の違いより、# か ♭ の違いの基準の方が経済状況を見るうえで有効だと考える。

(表 1) 調の性質について

調	調号	性質	代表的な名曲	
長調				
Asdur	♭ ♭ ♭ ♭	温暖	Scubert Missa Asdur	↑ 柔らかい調性
Esdur	♭ ♭ ♭	雄大	Beethoven Sym3	
Bdur	♭ ♭	柔和	Beethoven Sym4	
Fdur	♭	平穩	Beethoven Sym6	
Cdur		開放	Mozart Sym40	↓ 硬い調性
Gdur	#	流動	Haydon Sym 100	
Ddur	# #	光輝	Brams Sym2	
Adur	# # #	高貴	Beethoven Sym7	
Edur	# # # #	壮麗	Bruckner Sym7	

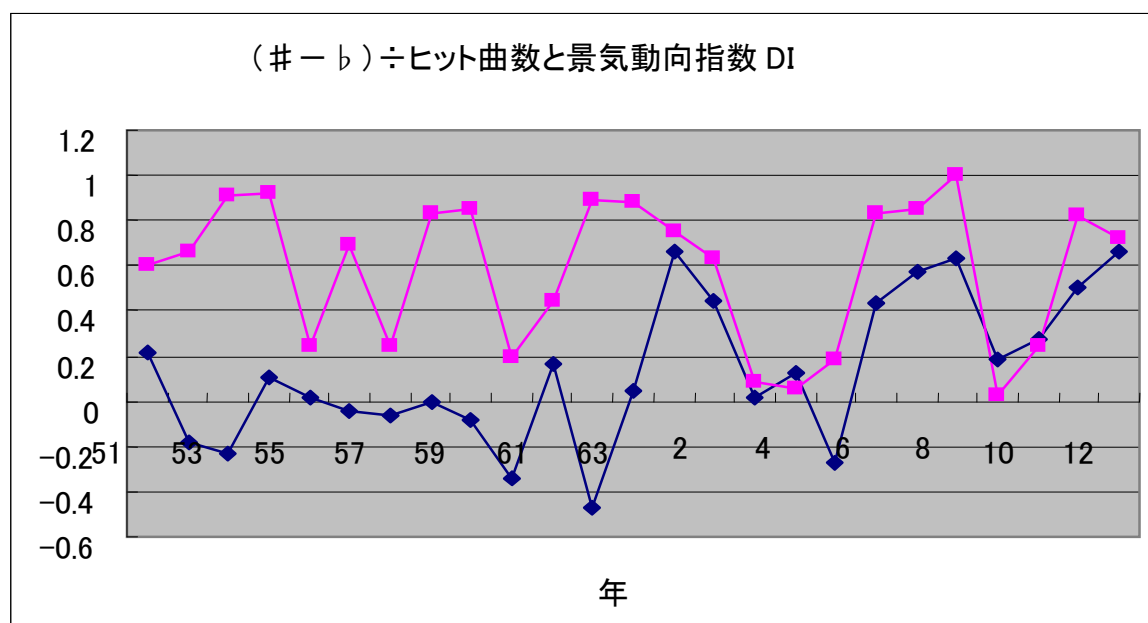
Abraham(1902), Kelletat(1982), Mattheson(1713), Mies(1948), Schilling(1738) および Stephani(1923) を参考に筆者がまとめたものである。

(図1) HIT4 (ヒット曲のテンポの平均の変化)



ヒット曲のテンポは昭和61年までは速くなっていく傾向があった。

(図2) HIT1 ((#-b) ÷ ヒット曲数) と 景気動向指数 DI



ヒット曲の調性 (紺) と景気動向指数 (赤) は概ね連動している。特に平成期にはその連動は顕著だ。